



インターンシップって？

◆自社の魅力を学生に伝える／離職率の低下期待

Q－最近、インターンシップという言葉をよく耳にするね。

A－インターンシップは、学生が社会に出る前に仕事を体験する制度です。夏休みに実施されることが多いので、募集の告知や案内が増えてきたのかもしれません。さらに、昨年から大きく制度が変わり、導入する企業が増えていることも理由の一つと考えられます。

Q－どう変わったの。

A－政府は従来、インターンシップを通じて企業が得た学生の情報を採用選考に利用しないよう求めてきましたが、2025年3月に卒業・修了する大学生・大学院生から、5日間以上のインターンを行うことを条件に採否の判断材料として使えるようになりました。制度の変更で積極的にインターンシップを活用する企業が増えることでしょう。優秀な学生を採用したいのであれば、インターンシップを実施しない企業は不利になるかもしれません。

Q－インターンシップを通じて企業のことを知ってもらうのね。

A－5日間以上の実務体験を通じて、学生は企業文化や仕事内容を深く知ることができ、企業側も面接以上にその学生の素養を判断しやすくなります。結果として、入社後のミスマッチを防ぎ、離職率の低下につながることを期待されます。

Q－富山県の企業にとっても重要な機会になるかしら。

A－富山県の場合、学生の県外進学率が高いことが問題です。県内企業がインターンシップを実施する際には、地域性を含めた企業の魅力を十分理解してもらうことが大切です。県ではこの春から「企業ナビとやま」「とやまUターンガイド」「インターンシップナビとやま」と分かれていた情報サイトを「就活ラインとやま」として一新しており、就活情報へのアクセスが容易になりました。富山から都心に出て就職した方のUターンも含め、今後地域を担う働き手が増えることを期待しています。

（この連載は北陸経済研究所の辻野秀信が担当しました）

新規学卒就職者の 就職後3年以内離職率

事業所規模	高 校	大 学
5人未満	60.7%	54.1%
5～29人	51.3%	49.6%
30～99人	43.6%	40.6%
100～499人	36.7%	32.9%
500～999人	31.8%	30.7%
1,000人以上	26.6%	26.1%

2023年厚生労働省まとめ